

砂の器

観賞日 2018・9・10

制作 1974年 日本 上映時間 143分
原作 松本清張
脚本 橋本忍・山田洋次
監督 野村芳太郎
音楽 芥川也寸志・菅野光亮
撮影 川又昂
出演 丹波哲郎（今西栄太郎）、森田健作（吉村弘）、加藤剛（和賀英良）
島田陽子（高木理恵子）、加藤嘉（本浦千代吉）、緒形拳（三木謙一）

【あらすじ】

昭和46年6月、国鉄の蒲田操車場内で起きた殺人事件。東北弁の「カメダ」という言葉を唯一の手掛かりにして必死の捜査を続ける警察。杳として知れない事件の行方。そこに突然現れた被害者の息子らしき人物。仏の化身のような男が何故無残に殺されてしまったのか。そこまで犯人を追い込んだものは。

その謎を追い求めて、東北、奥出雲、伊勢、石川、大阪、瀬戸内海の島を訪れる刑事の執念。ようやく追い詰めた犯人は今……。

原作者の松本清張をして「映画が原作を超えた」とまでいわしめた感動巨編。日本映画の最高峰。

【解説】

■最高のスタッフがこだわりぬいた作品

- ・原作：ベストセラー作家松本清張の代表作で本作以外にも度々ドラマ化
- ・脚本：巨人橋本忍と山田洋次による最高傑作
- ・音楽：音楽監督 芥川也寸志。「宿命」の作曲、ピアノ演奏 菅野光亮
- ・撮影：悲しいまでに美しい日本の四季の風景を追う川又昂のカメラ

■見どころ

- ・後半の1時間＝映像と音楽の見事な融合。主役3人の熱演
合同捜査会議シーン：丹波哲郎が主導

演奏シーン：加藤剛のピアノとオーケストラ演奏

旅の回想シーン：加藤嘉と子役の漂泊の旅

この3つのシーンを絶妙のタイミングでつなぎ合わせる。

社会の偏見と差別により強いられた親子の漂泊の旅。

極限の中で形成される異常なまでの親子愛。感動の極致。

※原作ではたったの2行を映画では大きく膨らませる

- ・日本映画史に残る加藤嘉渾身の名演技
構想から完成まで10年以上要したため当初のキャストは大幅に変更となったが加藤嘉だけは当初企画通り。（名優緒形拳も本浦役を希望したが却下）